

特別
13
3656
3





おやけいづ
大系 冢 蝦夷 彰

三之卷

目録

一

おや
親小不孝か悪者の神道者

りりや
本林を夫右馬が以壇に記する証の書

ひびき
ひびきする後叙とさきおきり



門へ13
3656
巻 3

一

才二

音楽の執音古調子の合ぬ仲る

曲のまらりがかりまらりとのさうた

まらりまらりて返る地地の節

才三

茶の石炭を張二人固き地

和当の情はまらりまらりのまらり

まらりのまらりまらりまらり

一 親小不孝か患者の神道者

止保加養。息養多す。坎良農巽。卦坤元乾。

はしてあまきまらりてたまふと。本綿襪とやうを

袈紗衣がけりて。鈴とあり神乃講中。世とよめざりて

これぞ死が。神乃の暮れりてるさやと。たの

のひとりふまらりうけ。病人があまきまらりて中

居後らりうけ。貴念仏のどく。さんげくお

めよ八太さんかうといふも。役乃若禱とららるるまらり

神のよえさ。病人ハ。神ととりのがせしてまらりつね。

新結だのこよ。業よ力といねむるあ。いうるつとまらり

ものも此中よよらりて。黄泉平坂の侍。授習いん

ちて。ひとり合長のゆく場よりの病のたせらるる
 り。くいの業。炭汁の介の養生あるべし。祈禱のれ
 守り加持神あるものも。香水のきりまてめんく不淨利。
 あらもきれへもゆるぬ病人をか。業汁炭汁を病
 と治せらるの理あり。祈禱が持て治せらるの妙あり。妙の
 ぞくごう。理はさくくしてふるがどまごののなきこと。
 ぬとめて。眼あての理と識ると。達人も智志とも
 ついべし。はよそきて。祈禱とあると。四時か。たと
 その人。精微宏文。少ても。悪人はすまされあるを
 とも。難波南のとりふふよ。耗徳強えといる。神
 なるあり。のといは。業坊主ありし。還俗して神た
 器づけ。佛法とせしむると。すもまごよる。まごといふ。

備前のとりかこあひと。病て。人よまきり。僧壇とせらるせ。
 あまごといふ。日蓮とせらる。人か新花あり。まらう
 まやま。とらる。たと。んく。ま。は。中。子。よ。表。大
 右衛門といふ。八百五。仏。倒。命。と。師。家。あり。名。を。ゆ。され。
 とも人。まご。と。あり。なる。が。その。親。及。節。ま。ぬ。へ。し。こ
 ろん。ご。る。後。生。ね。が。ひ。ま。て。日。蓮。宗。の。こ。づ。り。る。れ。ん。月
 次の。題目。録。年。く。つ。と。あ。ま。ご。り。し。ま。大。右。衛。門。神。及。
 ち。な。り。て。より。の。寺。あり。の。小。づ。ひ。ま。ま。ご。さ。ん。社。
 め。ぐ。り。と。ま。さ。ね。う。ま。う。む。金。報。の。あ。ひ。ま。い。と。ら。ん。と。も。
 法。法。の。界。の。れ。ご。う。と。親。ま。子。も。遍。屋。よ。ま。ま。ひ
 て。いら。とも。父。子。ふ。親。ま。あり。ても。親。の。み。と。思。ふ。あ。ら。の
 や。ま。て。邪。え。と。ま。げ。さ。こ。世。と。あ。ら。ぬ。あ。便。さ。り。や。ま



おきり

のりおちろ
親とさんく
おきり

おきり
おきり

おきり
子のふらうと
おきり

親とさんく
おきり
おきり



おきり
おきり
おきり

おきり
おきり
おきり

おきり
おきり

おきり
おきり
おきり

おきり

おきり

うわ。それもおめとて。に方とどり切よとらふとて
て出せむ。おは百文の猪残り入るあり。あの方へ移て
三文のふととらふ文と。やまひおもしろいうらや。
振る。しどむまづ。やまやと。けせらある人。おほ
振る。おは百文と。子孫と。い。て。い。て。く。す。ふ。の。こ
と。し。その。等。を。お。よ。そ。む。さ。り。や。ま。ら。る。が。氣。積。の。人
般。を。う。り。り。り。り。り。そ。む。さ。り。と。い。ひ。ら。る。が。お。お。人。づ
せ。よ。そ。あ。よ。り。り。こ。こ。そ。む。切。と。陰。め。時。そ。む。さ。り。な
の。等。を。つ。ぐ。と。ん。て。お。ま。づ。と。振。束。の。海。り。れ。い。で
う。を。り。り。り。り。り。り。り。何。と。て。お。ま。づ。い。ま
それとあくれ。うらむ。と。い。ふ。お。老。よ。あり。く。と。わ。ら。さ。き
て。ご。ざ。る。併。一。お。ら。い。ふ。ご。ざ。る。い。お。人。を。り。り。り。お。ら。い。い
ご。ざ。る。な。れ。ぬ。さ。う。な。と。ら。ふ。と。あ。れ。は。お。思。儀。じ。や。い。ま
も。び。男。一。人。の。い。で。う。ぬ。と。肝。を。つ。ぶ。き。む。ま。ん。と。さ。う。て
ご。ざ。り。や。を。せ。う。ら。る。そ。の。め。き。と。そ。お。ま。づ。ご。ざ。り。ま。せ
ぬ。が。お。の。心。配。と。ら。む。ひ。眼。つ。き。ご。ら。り。く。と。ら。う。て。ま
し。い。う。あ。て。も。う。て。こ。ま。う。な。款。つ。き。ご。ざ。り。後
する。お。ま。づ。な。よ。り。や。い。で。さ。か。あ。され。ま。い。と。い。ふ。を。れ
む。一。老。真。さ。あ。て。き。と。あ。ん

(二) 老系の統を古調子の念ぬ仲る

樂ハ人の心配和。音律の協化とたのむ。とご
解きだ。それう。おひ。ご。ん。や。あ。ま。な。伊。文。の。中。村。よ。
安。目。を。た。る。先。と。い。ふ。浪。人。あり。世。も。う。り。あ。く。お。さ。く

ひそくふぢ付とさうと裁をの次系がひらつたこの
 洞子よ七國のさう。あつたれつりともやとされど
 比氏獄よ何のまけもきりあをん蛇のちらひを
 びとさうんされど。安たさうが注をさるるすられど
 ませおうきせと。ぬまともや。せされ。さうと味
 ととげらられど。裁を法系。取の介よおどろきむ
 然ハ樂ふされど。吹かぐくさる。養あり。たさえん
 めのひらつたさうと。洞子と知るよひかうなよぬ表と
 つた。りあまつくその方ハ。すどり。勢を古といふ相な
 きむ。そのまけもあるや。兼ともハ。東へのかり。さう
 と師とりての勢を。傳授あさうらわれど。洞子
 とま。さ。ま。人。志。き。り。その。方。が。洞。子。七。國。の。さ。う。

何とさう。裁許もきり。比氏も志。案
 ト。そ。ろ。あ。ひ。ろ。い。づ。き。は。よ。い。勢。を。傳。承。以。て。た
 る。一。の。日。ま。ま。よ。め。い。く。の。勢。を。初。と。出。て。出
 だ。一。の。勢。を。こ。ま。り。て。あ。ん。も。家。名。を。ゆ。り。ぬ
 勢。を。た。の。日。勢。を。き。り。な。れ。た。た。る。元。ハ。師。通。を。一
 たる。相。ゆ。ん。系。統。の。巻。相。師。通。西。域。氏。より。つ。つ。り
 た。ま。を。裁。治。へ。さ。う。當。つ。て。さ。う。出。ま。べ。さ。系。を。さ
 あ。い。が。い。ち。ん。と。案。じ。う。ぐ。く。人。今。さ。う。人。だ。の。そ
 し。を。お。て。り。し。ひ。ま。む。な。は。は。り。さ。う。さ。り。あ。ん。と
 いろ。く。よ。さ。う。して。自。家。よ。ま。つ。け。さ。う。ふ。か。ま。む。ど
 の。う。の。煤。と。さ。う。さ。う。水。よ。り。せ。て。ひ。き。な。れ。ど。

友よのぢうぢうしつしつ時供よそのぢりあわは。越後
よととて。方ぐん地よびらら。南の端とよふ
あて饅頭屋へとり。饅頭とあてり。喰らるが。後
の何れども同ども。ゆんやせつまよありされん。
西館の門があざりと。ぬいそさかんととらを。
幸よのやうくせんぢうの代と。よもてごぢりま
せとりんぞ。そとふでありない。あてゆくとされん。
ひんあざとあしとひら。せいの種さくらん
だ。覚内びらら。一方。新つさあて。せつとらと
むまんとへら。くろしん。まがまんと。安西の浦七
席とりよて。高時。徳念。友の。おん。高比の。おん
代とりあ。う。ぬ。し。知。つて。あ。ま。し。時。あ。ら。ん

又又々々十文のうら。ひま。ご。せ。く。き。ぬ。ぬ。
あ。ら。ん。地。味。あ。り。ご。し。お。ん。館。へ。か。く。し。ぬ。
う。ら。う。ぬ。と。と。ご。ぢ。り。ま。し。て。つ。ん。ら。ら。腹。十
文。ま。よ。さ。切。て。お。ぬ。ら。り。か。い。ま。と。柄。よ。よ
と。ひ。せ。ご。し。あ。い。ん。幸。よ。い。お。ま。れ。て。か。ご。ま
ま。れ。し。を。ふ。の。ま。ど。し。ん。く。あ。り。う。さ。ぬ。つ。て。
是。の。お。奴。の。が。お。む。お。あ。れ。た。あ。が。お。お。後
づ。て。ご。ぢ。り。ま。や。ら。幸。よ。と。か。ま。り。あ。ま。れ。て。お
ま。の。お。ま。と。あ。ま。れ。ま。せ。う。ら。り。の。何。と。ぞ。お。ま。ら
の。さ。ら。さ。れ。て。お。ま。れ。ま。せ。い。是。で。お。う。つ。つ。と。や
で。ご。ぢ。り。ま。せ。ね。た。お。の。さ。ら。さ。ら。し。お。路。用。と。し
と。孫。と。貴。文。と。お。ま。せ。ら。う。ぬ。し。け。ん。内。と。お。ま。り

おハすけびらるるぐぬけてハあともさ記へもゆるぬ
りのみるをよつつけて糸結み。あまの細うて。横は
をねむらつてせぬとて。解きかたつてふふふ
けふよりハ松蔭和島といふ人あり。け和島の性
むくをいふ。夜漬といふふふ。あまのの堅き地
老あり。他系ハ系といつらるるがハ系がいつらる
能とひつて時ハ陳皮よ生薬といひて。お天ド
のめむよいとつて。他系あざとつて。陳皮とハ
あまのりる。横皮といふをいふ。きれといふとら
く。陳皮がよいとあつて。あつて。けあつて。ひおつて。百
日あまの。かこつて。ざりし。その比。薬学よ。名と
なる。松蔭仙連へ。いさな。やと。あんと。もく。け。づ。ら。ふ

あつてと系。一。つらる。仙連。生。他。ま。へ。す。ぬ。く。て
る。の。り。一。松。蔭。仙。連。一。つ。て。あ。ま。の。り。る。は。よ。難。波
よりのわり。仲村。中。伯。といふ。る。が。和。系。づ。ら。ひ
よのり。おハ。系。の。り。一。つ。ら。る。と。て。は。よ。り
さ。ま。め。さ。せ。て。ど。ら。う。で。も。け。け。ら。る。方。より。合。格。支
り。と。も。初。来。よ。さ。さ。め。ら。る。ま。あ。ん。あ。が。う。ぬ。け
く。よ。中。伯。か。へ。ひ。そ。ふ。形。で。合。格。あ。つ。持。系
一。一。か。う。の。陳。皮。と。い。ひ。て。下。さ。れ。し。た。の。め
む。一。か。か。う。の。横。皮。と。い。ひ。て。下。さ。れ。し。た。の。め
とのたのも。あ。ま。の。り。る。う。け。よ。さ。お。さ。し。が。お。さ。し。日
ふ。あ。り。て。あ。ん。一。度。よ。ん。ま。し。ひ。て。た。う。め。て。あ。ま
る。て。い。よ。り。て。あ。一。松。蔭。仙。連。の。皮。と。陳。皮。と。や

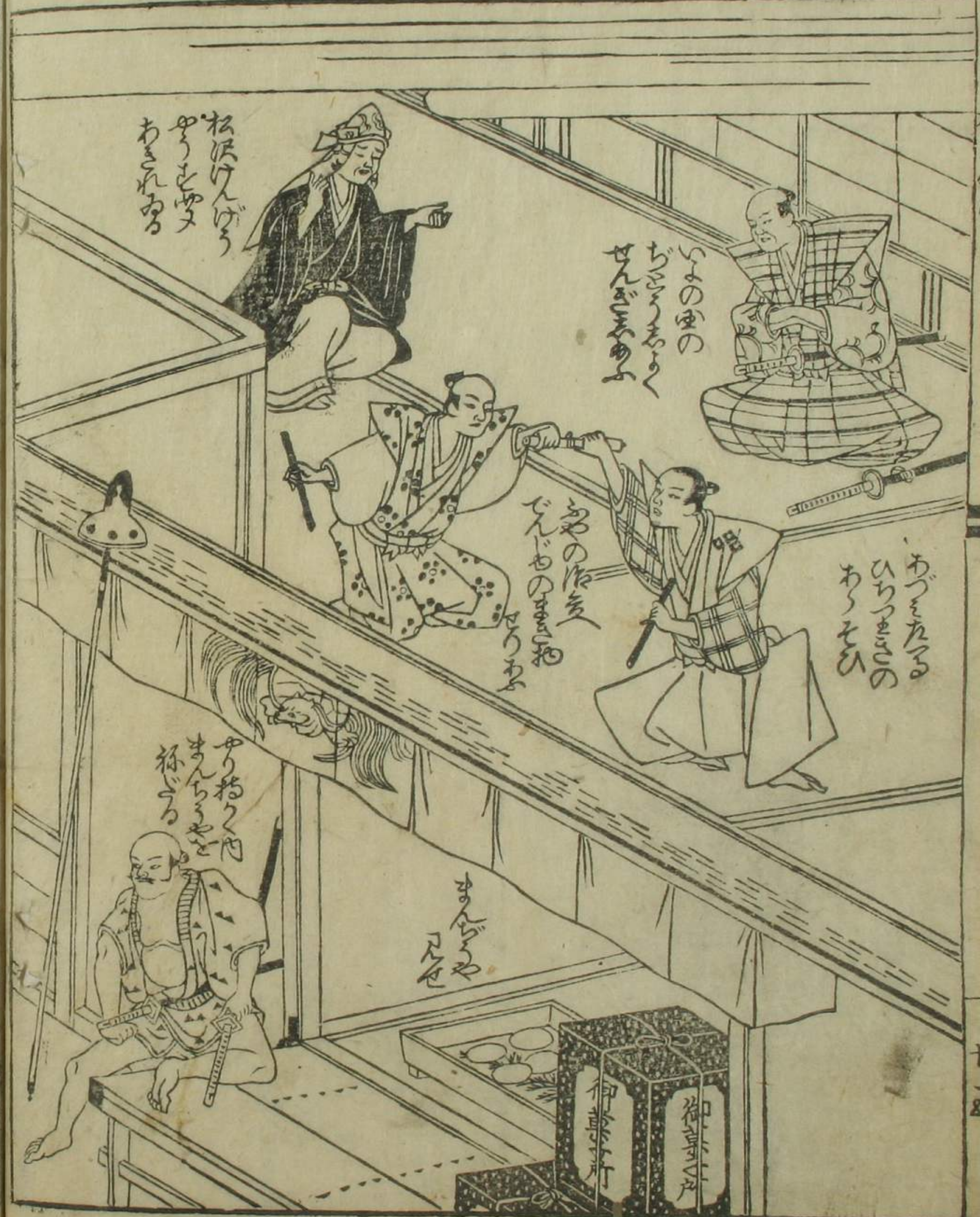


ほなのひけ
ふらぬの
さろさす

ほなのあん
まうげん
さそろ

やうぢあひの
あたらむこめ

ていも
金一
とびり



松沢けんげう
やうとや
あまねる

いこの
ぢふん
せんま

あひの
だんご

あつた
ひらまの
あつそ

やうぢあひの
あたらむこめ

あまねる

松沢けんげう

あまねる

せよこれハ。是なる男ハ。橋皮とヤリされまじき者。
 是ハいつきごとく。うごごりまじき者ぞ。明白ハ。修
 ころされて。くごされまじいと。いへん。平伯とい
 て。いふも。はせり。念ハ。四をなれども。双ふとのま
 ようり。うごご。その子細ハ。おの口ハ。陳皮。長の日
 ハ。橋皮と。四の口。なれり。と。つまて。よして。奥
 へ。入られ。も。あ人の。あされ。も。て。世。支づ。の。換
 あり。たる。是も。あ方が。家。と。なり。て。ま。け。時。と。志
 ら。ざる。あ。あり。と。ぞ。は。松。清。和。あり。ま。り。一。と。記
 を。ふ。あ。ね。む。ふ。と。葉。は。象。次。希。と。い。ふ。神。良。と。賞
 せ。たる。が。曉。て。も。昏。て。も。は。君。よ。の。も。ん。と。し。
 舞。舞。衣。裳。より。内。院。念。も。て。り。調。ね。は。は。

けやう。昔。聖。徳。田。の。む。紅。葉。と。一。時。は。徳。の。心。地
 して。た。ま。あ。は。る。り。たる。花。象。次。希。も。介。の。お。と
 ち。ぐ。ひ。大。切。は。あ。い。一。ら。ひ。和。尚。の。望。ふ。より。て。記
 徳。文。と。り。り。う。り。ね。ぐ。ひ。は。い。り。板。の。深。ま。り。ん
 る。も。老。の。あ。う。が。す。で。も。念。志。の。あ。る。の。初。末。た
 ぐ。ふ。る。う。ご。ご。う。さ。を。の。あ。う。ひ。ま。て。万。一。を。ま。へ。屋
 ぞ。て。ま。ま。あ。ま。よ。り。て。十。年。た。ひ。た。よ。り。と。終
 す。も。公。中。ハ。う。り。り。と。そ。の。介。り。わ。ら。り。か。り
 づ。ら。一。は。あ。く。し。め。び。す。と。と。む。さ。と。り。天。神。地。祇
 四。大。天。皇。帝。統。天。の。四。拜。別。し。て。ハ。丹。後。必。さ。れ。と
 の。交。殊。な。利。が。さ。ら。の。う。ら。と。と。う。け。ん。と。血。判。と。て
 病。う。り。一。方。一。面。ぐ。ひ。は。守。代。は。あ。さ。あ。い。う。く

ありき中とありける。若くは象沼帝。紫羅一
いのちひらきし。徳念の芝居本より。かよの
りりちひらきし。徳念の芝居本より。かよの
へ目のるい。習して。さうとくよと打て。よとウイ
くごを。後。和。あひより。さうとくよと打て。よとウイ
がわて。えあども。それ程の念まへそのひがら
ゆん。や。今。さうとくよと打て。よとウイ
さうとくよと打て。よとウイ
るよ。象沼帝へのり。相。あつらまき。のりけ。結。あ
相。あつらまき。のりけ。結。あ
も。また。ま。り。よ。て。還。俗。し。に。茶。の。床。ぐ。そ。ゆ。い
の。束。み。と。り。り。象。沼。帝。が

あんがうのつとまる程。と。精。の。つ。り。し。ゆ。ん。や。か
徳。の。ま。い。り。の。も。お。よ。ん。ぬ。ん。ど。よ。ゆ。い。り。し。ゆ。い。お
年。さ。ら。て。後。い。さ。り。の。徳。念。纏。よ。つ。け。て。さ。う。と
徳。念。よ。さ。う。と。ぬ。ん。ど。お。ち。つ。わ。て。芝。居。と。え。よ。ゆ
け。ど。も。象。沼。帝。ハ。出。だ。せ。い。ご。う。し。こ。う。と。と
がん。の。お。か。し。を。お。て。え。ん。れ。た。その。相。あ。つ。ら。ま。き
も。お。よ。ん。ぬ。ん。ど。よ。ゆ。い。り。し。ゆ。い。お
が。そ。ん。の。ゆ。り。ぬ。ん。ど。お。ち。つ。わ。て。芝。居。と。え。よ。ゆ
還。俗。し。に。茶。の。床。ぐ。そ。ゆ。い
と。り。り。ち。ひ。ら。き。し。徳。念。の。芝。居。本。よ。り。か。よ。の
そ。う。と。く。よ。と。打。て。よ。と。ウ。イ
そ。う。と。く。よ。と。打。て。よ。と。ウ。イ
ち。と。う。け。ハ。し。と。れ。た。す。が。い。し。と。り。り。ち。ひ。ら。き。し。徳。念。の。芝。居。本。よ。り。か。よ。の

此後家縁でりなありつらん。ごうんの端を為よ思ひ
つき。志のひくめちざりも。今ハ困どて一門あり
とりめち。つらとくは家のあつとる。桐谷を
の清直美として。あつねまあく日月とたよ象次を
るひもまされ。榮む時とねなるい。いうあるまのせいの
宿後あやと。折くつらでよ。まが鼻をとんでるも
あり。坊におちとる。まをせやと。何ぐみぐ経よ
まことぬる経よ。根がホとつとつと。あれど男
ざうりつてひまやうよ。あつそりとし。なる男。後
かかもとる。れねうらめあく。休念男といぬり。
ふ代は十七八人あり。つらつら。うさの後家。いふ
とおされて。藤おなる。つらつら。つらつら。思ひも

三之巻終

